



公益財団法人鉄道弘済会
第61回社会福祉セミナー
2025年7月6日（日） 講座②

当事者発の支援論 －「支援を受ける（される）」経験から－

一般社団法人 社会的包摂サポートセンター
相談支援コーディネーター 和久井みちる

1. 自己紹介～現在

1. 大学卒業後「福祉」の世界へ…「事務職」より「対人」支援
2. さまざまなジャンルで働く…でもベースはひとつの感覚
3. 今、振り返れば「お恥ずかしい支援」ばかり
4. 途中で「支援される・福祉制度を活用する」側に
5. 今、中心的な取り組みは「現場で働く方々の支援と育成」



2. どんな制度を活用したり、 どんな支援を受けてきたか

「どんな時に」

「何を」

1. 家庭の不和によるメンタル不調なとき……………（メンタル）医療ユーザー…通院・服薬を
2. 友人・知人 ……………適切な相談に行くためのサポートを
3. 行政の支援が必要だと思うとき……………その窓口が担う支援についての相談を
（さまざまな行政窓口） ⇒（「いい思い出」＝安心した感…はあまりない）
4. 法的解決と尊厳の回復が必要になったとき ……………法律家（弁護士）
5. 仕事が十分にできず生活保護が必要になったとき……………福祉事務所で生活保護制度の利用を
6. 当事者の仲間に出会えたとき……………居場所・交流・支えあいなどの安心を
7. 想いが近い支援者に出会えたとき ……………発信する・吐き出す機会の提供と「防風林」
8. 動き始める自信が芽生えたとき ……………トライするチャンスを

3. 支援について思うこと

① –「支援」を受けると「レッテル」がついてくる不思議！–

＜疑問①＞ 骨折してギブスをつけても笑われないのに、
困った時に制度を使うと「ダメ人間」??

＜疑問②＞ 「昨日の私」と「今日の私」は同じ私なのに、
制度を申請した翌日に違って見えてる??

＜疑問③＞ 医療保健や年金、子ども手当など、
どれもが制度なのに「生活保護」だけは「特別」??

＜疑問④＞ 「肉体の人」とは言わないのに、
「セーシンの人（精神疾患）」と呼ばれるのはなぜ??



3. 支援について思うこと

② –「期待される当事者像」との狭間で–

支援者・社会の中にある…… 「期待される当事者像」

当事者はそれを感じ取り、

「そのように振る舞う」



「でも・・・？」

- ・質素
- ・控えめ
- ・従順
- ・弱々しく
- ・我慢強く
- ・権利を主張せず
- ・常に支援者への感謝を忘れない



4. 当事者が考える「支援」とは

- ◎ その人が「顔を上げて」生きられるように
- ◎ 嫌なことには「NO」と言えるように
(尊厳を取り戻す)

……を支えること

5. 今、目指したい支援（存在）

「手すり」のように

その人が必要とする時だけ使って

それを必要としたことは忘れてもいい

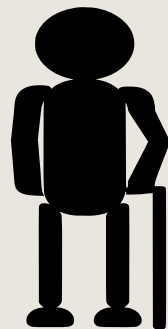
もし、必要なら何度でも

「杖」のように

あくまでその人の力で歩き

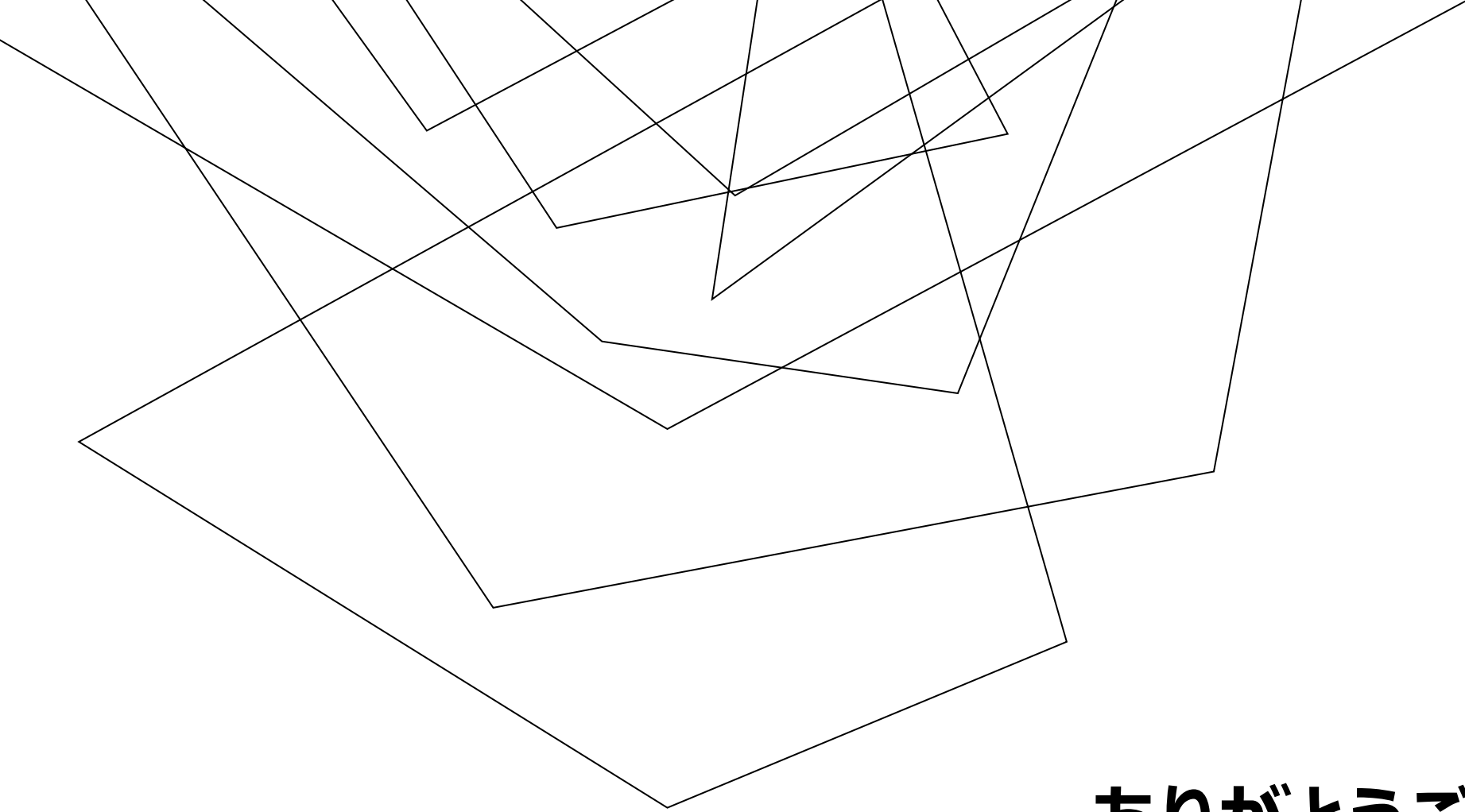
あれば安心なら使えばよく

不要になったら手放せばいい



さて、主役は・・・？ ？ ？



Abstract geometric lines forming various polygons and shapes in the upper left corner of the slide.

ありがとうございました。